

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

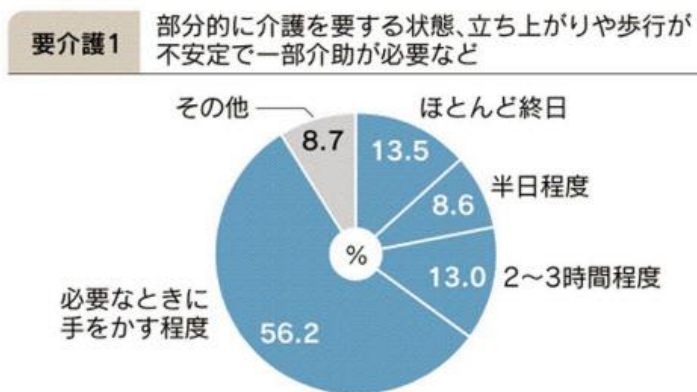
社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3604号 2017.4.16 発行

### 「要介護1」から家族負担軽く 保険や制度など活用で

日本経済新聞 2017年4月8日

公的介護保険で要介護認定を受ける人が増え続けている。とりわけ認定数が多いのが「要介護1」。介護サービスを受ける必要度はまだ低い段階だが、介護にあたる家族の負担は決して軽くはない。最近はや介護1でも、一定の支援や保障を受けられる制度や保険商品が

#### A 要介護1で同居者が介護にかける時間



(注) 厚生労働省の2013年国民生活基礎調査より。要介護1の説明は池田直子氏提供資料を基に作成

拡充されている。活用するコツを探った。

「これから要介護度が上がっていくと考えると気が重い」。東京都在住の会社員(42)は話す。昨年、別居する母(81)が初めて要介護認定を申請した。

結果は、7つある区分のうち最も低い「要支援1」だったが、その後、近所で転んでケガをするなど状態は

芳しくない。ほかに頼れる家族はいない。働く自分の都合も含め、今後の負担が気がかりだ。

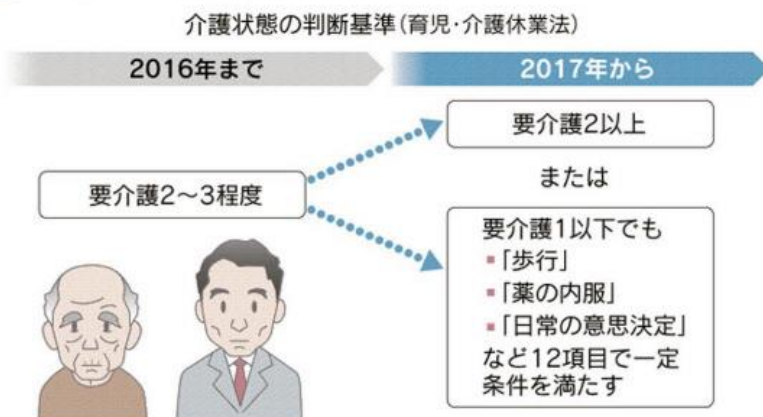
#### ■負担感大きく

社会保険労務士の池田直子氏は「要介護度の高低と、介護する人の負担感の軽重は必ずしも一致しない」という。厚生労働省の調査によれば、要介護1でも、同居する主な介護者が「ほとんど終日、介護する」と回答した比率は13.5%ある(図A)。

「半日程度」も合わせ

ると、2割以上の方が介護にかなりの時間を割いている。介護時間がそこまで長くなくとも、「要介護度が低いうちにしっかり今後の対策を練っておきたい」と池田氏は助言する。

#### B 要介護1でも介護休業を取りやすくなった



今年 1 月、介護をする会社員らにとって重要な制度変更があった。育児・介護休業法に基づくルールが見直され、家族を介護するために勤務先を休む「介護休業」を、これまでより取得しやすくなった。

対象となる介護状態の基準は昨年までは「要介護 2~3 程度」とされていた。今年からは「要介護 2 以上」または「歩行、薬の内服、排せつなど 12 項目のうち一定の状態にあてはまる場合」と変わった (図 B)。

要介護 1 以下でも、条件を満たせば、勤務先に申請することで介護休業を取ることができ、池田氏によると、「公的な基準よりもさらに介護休業を取りやすいよう独自の基準をもうける企業もある」という。

介護休業は、最長で 93 日 (家族 1 人当たり) まで取得可能。従来は原則、一度にまとめて取る必要があったが、今年から、3 回まで分割できるようになった。介護や仕事の事情に応じて、休む時期を決めやすくなった。

休業中は、雇用保険制度上の条件を満たせば、「介護休業給付金」を受け取ることも可能だ。給付額の水準は昨年 8 月から引き上げられ、賃金の 67% (従来は 40%) 相当となっている。給付金について疑問があれば勤務先かハローワークに問い合わせよう。

公的制度があるとはいえ仕事を休むのには慎重な人も多いだろう。SOMPO ケアメッセージの社会福祉士、川村耕平さんは「認定を受けた要介護度にかかわらず、訪問介護サービスに立ち会うなど、はじめは介護に時間を割くのがいい」と話す。ケガをしないための注意点を理解してもらうこともトラブル回避に役立つという。

介護の費用負担に対する保障としては、生命保険会社などが販売する保険商品も増えている。介護保険商品ではこれまで、要介護 2 以上に認定された場合に保険金を支払うのが主流だったが、このところ保障対象を広げる動きがある。

### ■「1」認定で年金

例えば朝日生命保険の「あんしん介護」というシリーズ商品は、要介護 1 以上になると一定の保障を受けられるのが基本的な設計。要介護 1 から終身年金を受け取れるタイプもある。

### C 要介護1から保障のある保険商品が増えている

	発売時期	要介護1以上になると…	契約可能年齢
あんしん介護 (朝日生命)	2012年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保険料免除</li> <li>■ 年金支払い</li> </ul>	40~79歳
あんしん介護 認知症保険 (同上)	2016年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保険料免除</li> <li>■ 所定の認知症なら年金や一時金支払い</li> </ul>	40~75歳
介護一時金特約 (損保ジャパン日本興亜ひまわり生命)	2017年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一時金支払い</li> </ul>	15~75歳

(注) 朝日生命は年金タイプか一時金タイプを契約時に選択。ひまわり生命は医療保険などに付加

昨年 4 月には新たに認知症に対応する商品を追加。要介護 1 以上に認定されたうえで、同社が規定する認知症に該当すると、年金か一時金が支払われる。年金と一時金の両方をもらう契約も可能だ。

今年 4 月、特約の形で介護一時金という保障を新設したのは損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険。

要介護 1 以上に認定されると原則、一時金が払われる。5~20 年の確定年金の形で受け取ることも可能。この特約は、同社の医療保険や低解約返戻金型終身保険に付加することができる。

ファイナンシャルプランナーの畠中雅子氏は、保険商品について「公的介護保険制度があるために関心が薄い人もいる」と指摘する。自分を介護してくれる家族などが近くにいれないような場合は、「介護用の資金を確保しておく必要がある」と話す。

契約する前には確認したい点もある。まず保険料の負担についてだ。「低い要介護度から

保障を受けられる商品は一般に保険料は高め」(畠中氏)だ。家計の状況を見て、長期的に保険料を払い続けられるかどうか考えたい。

細かな保障内容にも目を配る必要がある。例えば、どんなときに保険料の支払いを免除されるか。朝日生命のあんしん介護シリーズでは、要介護 1 以上に認定されると、以後の保険料が免除になる。ひまわり生命の特約は、要介護 1 以上で保険金が払われると契約が終了する。

介護が必要な人は増え続けている。厚生労働省によると、2014 年度の要介護（要支援）認定者は前年度比 3.8%増の 606 万人。65 歳以上の人口の約 18%を占める。うち要介護 1 は 117 万人（認定者全体の約 19%）と最も多い。

今後も公的な制度や、保険商品の内容は変化する可能性がある。介護負担を軽減できる方法はないか。条件は自分や家族にあてはまるか。よく見ておく必要がある。(堀大介)

### <秋田県>高齢者の地域共同体推進構想を策定 河北新報 2017 年 4 月 15 日

高齢者らが共同生活を送る地域共同体（日本版 C C R C）の設置を推進するため、秋田県は「秋田版生涯活躍のまち構想」を策定した。経済効果や県の施策をまとめ、市町村や事業者が計画を立てる際の指針にしよう。

設置場所は中心市街地と郊外の 2 通りを想定。取り組む事例として、山菜採りや農産加工を行う「元気ムラ」活動、I C T（情報通信技術）を活用した在宅勤務や健康管理、買い物支援を挙げた。

空き家や既存共同住宅の活用、N P O との連携や住民の互助、共助組織で冬の除排雪をすることも例示。子育て世代や外国人、障害者も入居する多世代共同交流住宅「コレクティブハウス」も検討課題とした。

高齢者の増加が市町村の財政を圧迫するとの懸念に対しては、市町村民税などの税収増や地域経済への波及効果があるとする試算を載せた。

県内では北都銀行系列の秋田不動産サービスが J R 秋田駅前に C C R C 拠点となる複合施設の 2 0 2 0 年開業を目指しているほか、秋田銀行や J R 東日本、大館、能代、男鹿各市も設置に向け検討を進めている。

県の鶴田嘉裕総合政策課長は「人が集まることで地域社会が活性化する。C C R C の取り組みを加速させたい」と話す。

### 介護職員 20 年度 8 万人不足 離職ゼロ、達成は困難 松川希実

朝日新聞 2017 年 4 月 15 日

厚生労働省は 1 4 日、2 0 2 0 年度に介護職員が 8 万人不足するとの試算を明らかにした。安倍政権が目指す 2 0 年代初頭までの「介護離職ゼロ」に向けて処遇改善策などで人材確保を進めているが、現状では不足を解消できない見通しで、目標達成は困難な情勢だ。

この日の衆院厚労委員会で、民進党の岡本充功氏の質問に答えた。

家族の介護を理由に仕事を辞める人は年間 1 0 万人で、そのうち介護サービスを受けられず離職するのは約 1 万 5 千人とされる。政府はこの人たちをゼロにするとし、昨年 1 月の推計で 2 5 万人不足するとした介護職員の確保を進めている。

### 介護の抱え上げ、原則禁止を 職員けが増加で教材作成

日本経済新聞 2017 年 4 月 16 日

社会福祉施設で介護にあたる職員の労災を減らそうと、中央労働災害防止協会（東京・港）は新規職員向けの教材を作成した。ベッドから車いすに移すなどの介護時に高齢者を抱え上げるのを原則禁止としたうえで、福祉用具の活用を求めた。同協会の調査では雇い入れ時の安全衛生教育の実施率が約 5 割にとどまり、都道府県の労働局などを通じて活用

を呼びかける。

## TBS「ビビット」が「人の皮を被った化け物」と報じたホームレスを直撃 男性の意外



な素顔とは…

産経新聞 2017年4月15日

ホームレスの男性が暮らす現場。ごみなどが散乱している＝3月下旬、東京都調布市の多摩川河川敷

多摩川河川敷に住み、犬を多頭飼いするホームレスの男性（70）について、TBSが「犬男爵」「人間の皮を被った化け物」などと報じた。TBSは「やらせ」や不適切な表現があったことを謝罪したものの、男性に付いたイメージを払拭するものではない。



果たしてどんな人物なのか。この男性を直撃してみると、意外な素顔が垣間見られた。（社会部 天野健作、写真も）＝4月4日にアップされた記事を再掲載しています

### 竹やぶに住むホームレス

東京都調布市の多摩川河川敷の竹やぶの中に目指す場所があった。周囲は公園で、ジョギングする人や弁当を広げ談笑する家族連れもいた。電話などでアポが取れるはずもなく、直撃するしかない。

ワン、ワン、ワン。ごみなどが散乱した竹やぶに一歩足を踏み入れると、盛んに犬が吠え始めた。

すみません。入り口とおぼしき板の前で声をかけるも、音沙汰なし。さらに踏み入ると犬の吠え声が一層大きくなった。すると、帽子をかぶって汚れた服装の男性が出てきた。こちらが名乗って話を聞きたいと告げると、「ちょっとそちらへ出ましょうか」。すんなり取材を受け入れてくれた。竹やぶから少し離れると、犬の吠え声がぴたりとやんだ。

「報道は自由ですが、そういう取材は許されないことです。私は頭がよくないから、相手が『怒鳴ってくれ』と言うので、それに応じました」

男性はTBSの取材姿勢に怒りを表すとともに、やらせの実態を訥々と語り出した。穏やかで丁寧な口調で、報道との落差にがくぜんとした。そのTBSの報じ方とはどういうものだったか。

### TBSの陥った過ち

TBSの朝の情報番組「白熱ライブ ビビット」は1月31日、多摩川河川敷に住むホームレスの現状について特集を報じた。

多摩川に住むホームレスを「リバーサイドヒルズ」と表現した上で、「犬の予防接種の義務を放棄し、多頭飼育する新たな問題が浮上」と問題提起した。

冒頭、リポーターが現場を取材していたところ、この男性が「何やってんだ！勝手に入りやがって」と怒鳴る場面があった。そこに「犬たちを束ねる長（おさ）、その名も犬男爵」とテロップ。「人間じゃないんだ」「人間の皮を被った化け物」という周辺住民のインタビューも紹介される。リポーターがわざとらしく、マネキンのような首の部分につまづいて転ぶ場面もあった。

問題はやらせだ。冒頭の男性が怒鳴る場面は、男性が事前に、コンビニの缶コーヒーを飲みながらスタッフと撮影を打ち合わせていたという。

TBSの武田信二社長は3月29日の定例会見で、「不適切な内容だった。視聴者や関係者に改めておわびしたい」と謝罪した。





TBS広報部に見解を聞くと、今回の報道についてホームページに公表した通りだという（既に削除）。それによると、「犬の多頭飼育の問題点を伝えると同時にそうした暮らしをせざるを得なくなっている男性の境遇や心情にも迫ろうとした」と番組の趣旨を説明。しかし、批判を受けたことから放送内容と制作過程を改めて検証した結果、「取材した男性を傷つける表現や取材手法に不適切な点があった」と認めた。やらせ報道についても認めたと上で、「男性をすぐに怒鳴り散らす粗暴な人物と印象づける結果となり、不適切な手法だった」と謝罪した。

### 福島出身、娘も孫も存在

「今は福島に帰りたいと思ってます」。男性は福島県郡山市出身で、小学校の頃は「理科が好きだったが、勉強は嫌いだった」。中学3年まで福島にいた後、東京都世田谷区に引越した。<

建設現場でコンクリートを打つ仕事などをしていた。エンジニアをしていたこともあり、福島原発問題にも関心がある。15年ほど前に事業に失敗し、ホームレスになった。以前は東京都狛江市の河川敷にいたが、3年ほど前に調布市の多摩川河川敷に移ってきた。

東京都内に娘や孫もいる。「ある程度、娘とかにきちっとしてあげたい。犬がいるから世話になれない。これだけの犬がいるので。花火のときには娘たちもここにくる。どこへ行ったって、ホームレスは迷惑をかけるもの」と寂しそうに話した。

普段は空き缶を拾って換金して生活しているという。飼っている犬は11匹。犬の餌を買いに行く毎日だという。

取材中、尻尾を振ってマルチーズらしき犬が駆け寄ってきた。「さくら！外出たらダメでしょ」。首を下に向けたままのチワワもトコトコと歩いてくると、男性は抱き上げた。「虐待されたかもしれない。首が上がらなくなっている」。頭を優しくなで上げた。

11匹の中には、盲目の犬もいる。なぜ犬をそんなに飼うのかと聞くと、「とにかく命ですよ。この子たちは私の財産」と言った。ほとんどが、飼えなくなって持ち込まれた犬だという。

### 退去警告、悩む市

しかし河川敷に居住を設けることは違法である。調布市によると、これまで一帯にはホームレスが4人いたが、この男性以外の3人は施設に入ってもらうなどして退去が完了したという。

残った男性に対しては、市が現場に退去を促す「警告板」を掲げたが、市緑と公園課は「話し合いを続けているが、犬もいるし、なかなか難しい」と弱り顔だ。

この男性については法政大の学生が昨年、取材し映像作品を残している。取材した女子学生は「私が2カ月間取材した男性の人物像と報道内容が全く違うのでびっくりして、心を痛めた」と話した。

学生の作品は「気難しいが、大好きで傷ついたペットを見捨てられない男性」と位置付け、男性の率直な心の内面まで描写していた。

指導した水島宏明・上智大教授（テレビ報道論）は「今回のTBSの報道は人権に関わる。ホームレスは確かに不法占拠しているが、人としてプライバシーを保って生活する権利がある。それが取材で乱暴な形で破られている。襲撃を誘発しかねない報道だった」と指摘した。

「白熱ライブ ビビット」 TBS系列で平成27年3月から平日午前8時～9時55分に生放送されている情報番組。司会は、人気グループTOKIOの国分太一さんと、女優の真矢ミキさん。曜日代わりでお笑い芸人や漫画家らがコメンテーターを務めている。

TBSの武田信二社長は3月29日の定例会見で、1月31日放送の「白熱ライブ ビビット」で「犬男爵」などと表現したことについて、「不適切な内容だった。視聴者や関係者に改めておわびしたい」と謝罪した。放送後、「差別や偏見を招く」と批判が寄せられ、同番組は今月上旬、公式サイトなどで謝罪していた。

支えながら生きていく 熊本地震から1年 被災地では 大森浩志郎、平井良和、江崎憲一  
朝日新聞 2017年4月16日

熊本地震の被災地では、4万人を超える人たちが応急仮設住宅などに暮らす。何げない日常生活が一変したあの日から1年。支え合いながら、生きていく。

■乗り越える姿、見せたい 仮設団地のムードメーカー、女手一つで子育て・介護

貝崎加代子さん（49）は益城町の広崎仮設団地のムードメーカーだ。いつも住民の笑い声の中心にいる。



みなし仮設の住民らが集まった会場で行われた「笑いヨガ」=2日午後1時45分、熊本県益城町の広安西小学校、小



宮路勝撮影

熊本地震で自宅が全壊。約2カ月間、駐車場で車中泊をし、6月に仮設団地に入った。仮設住宅の入居順は抽選だが、最も早く完成したこの団地の53世帯は、大半が長期の避難所生活が難しい75歳以上の高齢者や障害者がある優先世帯。昨年末、若い貝崎さんは自治会の副会長に推され、仮設の「支える側」になった。

「人生のハードルは次々やってくる」と言う。11年前に夫と別れ、3人の子を一人で育てる。自転車を買うお金がなく、昼は熊本市南区の印刷会社まで2時間以上かけて歩いた。深夜は運送会社で働いた。睡眠は明け方1時間と昼の休憩時間。過労で意識を失い病院に搬送されたこともある。

昼の仕事に絞ったが、3年前、先天性の脳梗塞（こうそく）で寝たきりの次女、羅菜（らな）さん（20）の体調が悪化。介護のため仕事を辞めて以来、貯金を切り崩して暮らす。

長女の鈴菜（れいな）さん（24）は勤め先が被災したことなどから仕事を辞めて求職中。今春、大学を卒業した長男の秀哉（しゅうや）さん（22）は警察官を目指して勉強している。

見通せない仮設暮らしに子どもの病気や就職——。団地の外で会った知人に「ハードルを越えられない」と弱音を吐き、一人になると涙がこぼれる時もある。

それでも仮設団地の中ではみんなを支え、笑顔で冗談を飛ばす。

今月9日夜に地震があった時には、一人暮らしや高齢者宅をまわり、安否を確認した。日頃から声かけを欠かさず、一人暮らしの高齢者のインフルエンザにいち早く気づいたこともあった。「自分が支えられているので、皆さんのためにできることをしたい」と貝崎さん。親友の米野（こめの）淳子さん（54）は「加代ちゃんは頑張りすぎるくらい頑張るから」と心配する。

貝崎さんには今、大型自動車免許の取得という目標がある。2月に教習所に通い始めたが、仮免許の試験に落ち続けた。今月4日、自治会長の田原（たわら）八十八（やそはち）さん（83）に相談すると「あきらめるな。最後まで気を抜くな」と叱咤（しった）された。田原さんは「ここの住民はもう家族だから」という。

その翌日、7回目の挑戦で仮免許の試験に合格すると、真っ先に田原さんに報告した。仮設団地の駐車場で自家用車で練習してきた貝崎さんは「ひとつ壁を越えられた。すっごううれしい」。18日には本免許の試験が控えている。

「子どもたちに壁を乗り越えられる力をつけてあげたい」との思いから、まずは自分が壁を越える姿を見せようと挑戦した大型免許。一番の目的は生活を立て直すことで、トラ

ック運転手なら昼に羅菜さんを介護し、夜間は働ける。目的はもう一つ。「復興イベントに仮設の皆さんを送り迎えできるじゃないですか。皆さんには感謝していますから」

#### ■仮暮らし、孤立防止へ続く見守り

熊本地震では、熊本県内に110の仮設団地が建設された。規模は4戸から516戸まで様々。最大の課題は元の住まいを離れ、地域から切り離されたことによる孤立を防ぐことだ。

熊本県では、訪れる人が増えるように集会場を温かみのある木造にし、規模が大きい62団地に計84棟を建設。個々の仮設住宅の南側に縁側を設け、住民同士が交流しやすい環境整備を図る。各自治体は生活支援相談員らを配置し、全戸訪問などで見守りを続ける。

それでも3月28日、益城町の惣領仮設団地（63戸）で、一人暮らしの61歳男性が部屋で病死しているのが見つかった。死後数日が経っていた。

自治会長の楠田登喜男さん（65）は「もっと早く気づけたらどうか」と自問する。集会場では毎週のように外部の支援団体とイベントを開く。相談員の戸別訪問も週に数回入り、自身も日に3度は団地内を1周して住民と言葉を交わす。

亡くなった男性は地震で自宅アパートが全壊。近くの仮設に姉がおり、持病もあったという。イベントには顔を出さず、相談員の声かけに最後に答えたのは3月初め。エアコンの室外機が動きっぱなしだと気づいた住民が、楠田さんに伝えたのは3月23日夜。その日から新聞もたまり、声かけにも返事がない。28日、午前の相談員の訪問に応じないと聞いた楠田さんは町役場に連絡し、警察官が鍵のかかったガラス戸を破った。

団地では4月2日から毎日、各戸が「元気です」との意思表示のための黄色い旗を軒先に掲げている。男性の死はその準備の矢先。「経験を機に、よりつながりを深めたい」。町の仮設団地同士で課題を共有するために2月に発足した自治連合会を通じ、他の団地にも活動と呼びかけている。

各自治体は、約1万5千世帯に上る民間アパートなど「みなし仮設」への全戸訪問にも取り組む。市町村の枠を超え、元々いた住所地ではなく現住所の自治体が要支援者を見守る態勢づくりを進めている。

益城町の広安西小学校で4月2日、みなし仮設の入居者が集う「つながる広場」が開かれた。町の委託で活動する団体「よか隊ネット」が企画し、元は町に住む約610人が音楽や健康体操などを楽しんだ。

昨年12月に続く2回目。町内の自宅が全壊し、昨年6月から熊本市東区のアパートに一人で暮らす西村マサ子さん（64）は初めて参加。心臓に持病があり、9月初め、夜に急に苦しくなり自分で救急車を呼んだ。10月から約3カ月手術入院し、リハビリを続ける。

広場に来て、益城町で近所だった人が同じ東区で一人暮らしをしているのを知り、「お茶でも行けたらいいね」などと声を掛け合った。「いっぱい笑えて楽しかった」と笑顔だった。

よか隊ネットの高木聡史副代表（49）は「いろんな事情でここに来られない人もいる。つながれる機会を増やせるよう、考えていきたい」と話した。

#### ■「先生」と生死分けた教え子

益城町惣領で亡くなった荒牧不二人さん（当時84）の自宅跡には14日、荒牧さんと一緒に建物の下敷きになりながら生き延びたカラオケ教室の教え子が花を手向けに訪れた。

井手幸代さん（63）は昨年4月14日の前震発生時、荒牧さんが自宅で開いていたカラオケ教室でレッスンを受けていた。マイクを握っていた時に突然揺れ、倒壊した家屋の下敷きになった。「一番に先生の名前を呼んだけど、助けようにも、がれきが自分の背中に乗って動けなかった」。荒牧さんから返事はなかった。

井手さんはその後、警察や消防らに救出された。「先生と一緒にだったのに助けられず、本当に複雑な気持ちだった」と振り返る。益城町内の井手さんの自宅も全壊し、今は熊本市内のみなし仮設に住む。

荒牧さんのカラオケ教室には6、7年通っていた。最後に荒牧さんに習った曲は松原のぶえの「能登みれん」。地震後は、歌を歌うとどうしても涙が出る。それでもこの日、荒牧さんが大好きだったりんごジュースを自宅跡の祭壇に供え、「せっかく続けてきたので今後も歌わせていただきます」と報告したという。「1年を節目に、今から少しずつ歌っていききたい」

同じく教え子の光永ひとみさん(62)は「甘くすばらしい声で、話し好きの先生だった。まだ亡くなったことが受け入れられない」と話していた。

**社説：避難者いじめ 実情学び考える授業を** 朝日新聞 2017年4月16日  
東日本大震災と原発事故で、福島県内外に避難した子どもたちへのいじめが、この1年間で129件確認された。

震災や事故からむいじめと認定されたのは4件だけだったが、文部科学省は「すべて把握できたわけではない」と説明している。むろん、これは氷山の一角にすぎないだろう。

「お前らのせいで原発が爆発したんだ」「放射能がうつるから来ないで」と過去に言われた例も報告された。横浜市に避難した子がいじめで不登校になったことが、昨年秋に大きく報じられたのを改めて思いおこす。

「背景には放射線や、避難を続ける人たちへの理解不足がある」と松野博一文科相は述べた。子どもたちは周りの大人の発言や態度に影響を受ける。はびこるいじめは、大人社会の無理解を映す鏡でもある。

県民を傷つける言動を閣僚もくり返してきた。自主避難者の苦境を「本人の責任」と言い放った今村雅弘復興相だけではない。石原伸晃氏の「最後は金目でしょ」、丸川珠代氏の「反放射能派、と言うと変だが、どれだけ(線量を)下げても心配だという人はいる」などだ。どちらも環境相時代の発言だ。

福島に戻る人が増えるほど、復興が進む。あるいは進んでいるように見える。政権のそんな思惑と打算が、避難者に肩身の狭い思いをさせてはいないか。

いじめの原因が「理解不足」にあるのなら、実情を学び、考える機会を子どもたちに提供する責務が、大人にはある。

たとえば福島県教育委員会が作った「ふくしま道徳教育資料集」を使ってはどうか。小中高向けの各版がそろい、県教委のホームページからも手に入る。

避難を強いられた住民の気持ち。「放射能差別」や福島の農産物に対するいわれなき偏見。そうした重いテーマも、実話に基づいて扱っている。

避難生活や福島の現状を描いたルポ、ドキュメンタリーも、教材にできるだろう。放射線の勉強をまじえて総合学習で学んだり、現代社会などの授業で扱ったりする方法もある。

避難するか、とどまるか。故郷に戻って再出発するか、避難先で生活をたて直すか――。一つの正解がないからこそ、福島の人々の選択は分かれた。

「本音で語り、考えが相いれないこともあると認め、互いを尊重しつつ折り合いをつけることを学んでほしい」。福島県教委の担当者の言葉だ。

教え込むのではなく、自分で考えさせる。そんな授業に取り組む良い機会ととらえたい。月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんペクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

